

リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内中学校（岡山県）

【取組内容①】 PBL推進の中でMeet配信も活用しながら探究的な学びを広げ深める取組

カテゴリー

「探求学習の成果報告」(2・3年生合同のこみゅトレ実施)

活用概要

2年生が総合的な学習の時間で行った「福祉探求学習」の学習成果物である個人のプレゼンテーションを3年生に発表し、評価をフィードバックしてもらいました。

使用アプリ等 Meet Googleスライド 学習支援ソフト

【活用目標や工夫点、活用の流れや生徒の様子】

● 探究学習でのプレゼンテーション等のアウトプット活動は非常に大切であり、クラスや学年単位でのグループでの発表形態もありますが、小グループで順番に発表していくことで全員がプレゼン経験を積むことができます。また、3年生等の異学年に聞かせ、評価をフィードバックしてもらうことで、次へのステップになるものと考えています。

● こうした活動の企画運営も生徒の実行委員会に任せ、全体司会が8クラスにMeet放送で指示を出していくようにしています。

● 2年生は自分の責任を果たしながら良いプレゼンができていました。3年生も適切な評価ができていた生徒もいました。

● もう少し、質問する力が身に着けていけば、さらに良い取組となるのではないかと考えられます。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内中学校（岡山県）

【取組内容④】「職員・学級ポータルサイト運用による業務改善」

カテゴリー 「教職員ポータルサイトの活用」(教職員)

活用概要

教職員の働き方改革の一環として、ポータルサイトを中心とした情報共有の形をとっています。予定や連絡事項は勤務開始時に確認することで打ち合わせ時間を大幅に短縮しています。

使用アプリ等 Googleサイト クラスルーム Gメール 等

【活用目標や工夫点、活用の流れや生徒の様子】

●行事や連絡事項、欠席(保護者がフォームで欠席連絡を送信し、一覧表提示)確認、生徒の体調メンタル確認をポータルサイトで行っています。

●職員クラスルームでは、重要なお知らせや教育資料等を共有し、会議での説明を極力なくしています。職員会議資料等もクラスルームで共有していますので、様々な資料文書が要項からリンクで見えるようになっています。

●クラスルームの授業を活用し検討事項や書類を整理しています。

●欠席連絡ボードには不登校生徒や欠席者がオンライン授業配信を希望しているかどうかも提示されますので、毎日どこかのクラスでオンライン授業は行われています。

●情報が過多となりますので、処理能力が必要となります。また、学校外でも確認できる良さがありますが、いつも縛られている感覚を持つ場合もあるため、意識改革が必要となります。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内中学校（岡山県）

【取組内容②】「事業所の方々とオンライン交流を実施しキャリア発達を醸成」

カテゴリー

「キャリア教育 オンラインで事業所の方々と交流」(3年生)

活用概要

GIGAスクール構想の中、学校外の多様な人材とオンラインで交流できることは重要なメリットです。製造業や福祉サービス業、様々な業種の方々に会社の概要を説明いただき、いろんな質問をしました。

使用アプリ等 ウェブ会議ソフト 等

【活用目標や工夫点、活用の流れや生徒の様子】

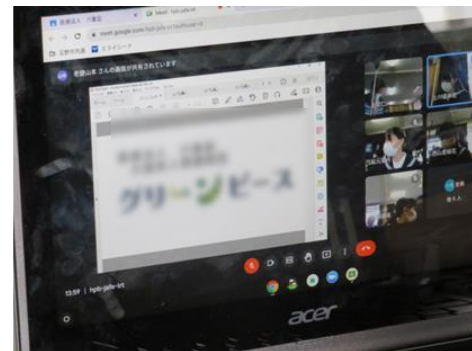
● 事業所の方々に学校へ参集していただくのは非常にハードルが高いですが、オンラインであれば比較的日程調整が楽な場合があります。

● 生徒のグループに対していくつかの事業所の方に入っていただき、会社の概要や何を大切に働いているか等を説明していただき、その後生徒たちが質問をはじめます。

このセットをグループを変えながらいくつか繰り返していただきます。

● 生徒たちは事業所の方々が何を大切に働いているのかを聞き、興味津々で質問を繰り返していました。

日頃あまり話せない生徒が、オンラインならよく話せるという光景は珍しくありません。自分の将来の進むべき道を考えながら、積極的に交流に取り組んでいました。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内中学校（岡山県）

【取組内容④】「不登校・欠席生徒へのオンライン授業配信で家庭訪問実施の機会を軽減」

カテゴリー

「不登校・欠席生徒へのオンライン授業配信」(全学年)

活用概要

GIGAスクール構想の中、多様な学びの場を設定していくことは学校の使命であり、登校支援室やオンライン授業配信は行うべき支援です。本校では、常時オンライン授業を配信しています。

使用アプリ等

Meet等ウェブ会議ソフト 等

【活用目標や工夫点、活用の流れや生徒の様子】

- 欠席連絡フォーム送信時、保護者の方はオンライン授業配信を希望するかどうかを入力します。希望があれば、授業を配信します。
- 授業を視聴するだけの生徒もいます。写真のように、グループ協議に参加する生徒もいます。その生徒の状況に応じて、対応方法を変えていく必要があります。
- また不登校の生徒も、自宅でオンライン授業を視聴する生徒もいますし、市の適応指導教室や本校の登校支援室「ほっとルーム」で視聴している生徒もいます。
- 少し違いますが、不登校生徒のうち、授業には参加できないが、放課後に担任とオンライン懇談はできる生徒には、オンライン懇談を実施しています。
- 生徒の課題が多様化する中で、学校が行う支援対策も多様化していくことが必要だと思います。



【取組内容①】「協働的な学びの中でGoogle Jamboardによる思考整理を実践」

カテゴリー

「Jamboardによる思考整理」(全学年・各教科)

活用概要 Jamboardによる協働的な思考の整理は大変有効な実践です。校則改定時の全校生徒による協議場面という大きな取組でも活用できましたし、各教科の授業内における思考整理にも活用しています。

使用アプリ等 Jamboard Meet

【活用目標や工夫点、活用の流れや生徒の様子】

- 生徒会定例会等の全校オンライン協議の場では、各クラスの意見集約時に活用しました。視覚的に生徒全員の意見が表現され、自由に移動しながら整理できることで、意見の整理ができました。
- 各教科の授業内でも有効に活用しています。Jamboardを活用することで、対面では意見を出しにくい生徒も意見を表現し、話し合いに参画することが安易になっていたようです。
- Jamboardでのデジタル整理が有効なのか、付箋等を活用した同様のアナログ活動が有効なのか、そのあたりは協議テーマや生徒の実態に応じて教師が選択するか、生徒が選択していく必要があるものと思われます。
- いずれにしても、全校規模の協議ではデジタルの意見共有が有効であることは否めないと考えています。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内中学校（岡山県）

【取組内容②】「市内中学校生徒会役員オンライン交流会の実施で主体的な活動を充実」

カテゴリー

「玉野市内全中学校生徒会オンライン交流」

活用概要

本校生徒会が立案し、市内全中学校の生徒会役員のオンライン交流が毎年の定例取組としてスタートしました。GIGAスクール時代の効果的な校種間連携の一つのかたちを構築しました。



使用アプリ等 Meet Googleスライド

【活用目標や工夫点、活用の流れや生徒の様子】

- これまで、市内すべての中学校生徒会が意見を交わすことは考えられてもいませんでした。GIGAスクール時代、こうした取り組みも安易にできるようになり、玉野市の中学校では定例の取組として実施できるようになりました。
- 各校の生徒会役員は自校の取組を紹介し、他校の取組を聞くことで、一層の充実を図るよう、刺激になっています。
- 他校の生徒会の取組を知ることで、自校の課題を一層整理し、新しい取組を考案していく原動力となっています。
- 何よりも大切なのは、教師の意向を挟まないことであり、生徒間で自由に協議し合うことを保障することだと思います。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内中学校（岡山県）

【取組内容②】「生徒会役員選挙にオンラインで小学6年生を参加させることで中学校への意識を醸成」

カテゴリー

「生徒会オンライン選挙」(全学年&荘内小6年生)

活用概要

生徒会役員選挙はオンライン投票で行われます。瞬時に投票状況が集計されること以上に、小学校6年生の選挙参加が可能となり、自分たちが入学した時の生徒会役員を自分たちも一緒に選出するという取組が可能となりました。

使用アプリ等 Meet Googleスライド

【活用目標や工夫点、活用の流れや生徒の様子】

- 生徒会選挙期間中は立候補者の動画を給食時間中に流したり、直接の挨拶を行い期間を設けていました。小学校6年生にも動画を視聴してもらい、選挙に参加する意義を伝えました。
- 立候補者は演説スライドを工夫したり、動画の制作に取り組んでいました。
- 6年生児童は真剣に進学校の生徒会役員を選出するため、各立候補者の公約等をメモしていました。
- 荘内中では今後も中学校区一貫教育の取組の中で、生徒会選挙も異学年交流選挙を重視し、社会参画意識の醸成に取り組んでいきたいと思えます。
- 投票はフォームで行います。これが次世代型選挙制度の在り方と考えます。



小学校サイドの状況



リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内中学校（岡山県）

【取組内容④⑤】「Google Chatの徹底活用で校内の情報共有を徹底効率化」

カテゴリー

「Google Chatで校内情報共有」(教職員の働き方改革)

活用概要

毎日の教育課程推進の中で様々な情報が錯綜します。全教職員のChromebook活用が日々の日常になっていけば、Chatでの校内情報共有が当たり前となり、効果的な教育活動を推進することができます。

使用アプリ等 Google Chat Classroom

【活用目標や工夫点、活用の流れや生徒の様子】

●学校現場では職員室と各教室での情報のやり取りが重要な業務遂行の観点となることは当然です。出席の状況、遅刻や早退の状況、保健室への生徒移送といった連絡は、インターフォンだけでは困難な状況があります。Google Chatであれば、非常にスムーズにすべての学級との情報連携が可能です。本校では日々リアルタイムに学校全体の生徒の状況がChatにより効果的に情報連携され、各教員が情報を確認して適切な行動を行うようにしています。

●また、各校務分掌での確認事項の共有だけでなく、小中学校間での意思統一の推進、市内学校間での協議も簡単に進めることができます。

●生徒指導案件が発生した場合も、案件でChat Spaceを立ち上げ、調査内容等を瞬時に共有するようにしています。

●関係教員が授業中であるため、確認ができない等の場合、なかなか適切な対応ができにくいこともあります。臨機応変に学校現場で起こる事態や市内の学校間で情報共有すべき事項について、Google Chatを活用することは重要な取組と考えます。また、事案・事項によっては、Classroomの活用は必要であり、情報共有・協議の内容に応じて活用する必要があります。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内中学校（岡山県）

【取組内容①】「クラウド上で質問を書き込むことのできるツールを活用して説明中の質問を効果的に把握」

タイトル

ツールを用いてクラスルームでつながっていない人とも質疑応答可能に！

活用目的
の概要

全体にプレゼンで説明して質問を集める際、クラスルームで繋がっていない人とも手軽に質問を集めることができるソフトを活用すると便利です。使う生徒は二次元コードを読みとれば、後は打ち込んでもらうだけ。聞き手も「質問を考えながら聴く」スキルの向上ができる！

使用アプリ：無料で使えるクラウド上で質問を収集できるソフト

【活用概要】

- (1) 実施日：令和 5年 10月 11日
- (2) 実施学年：6年生 生徒会役員
- (3) 実施領域：生徒会活動・中学校生活スタートプログラム

(4) 実施内容の紹介（概要）

生徒会の取り組みについて、生徒会役員が6年生にプレゼンテーションソフトを用いてプレゼンを行った。その際、ただ聴いてもらうのではなく、質疑応答しながらプレゼンを進めていきたいと、生徒が申し出てきた。

そこで使用したのが、無料で使えるクラウド上で質問を収集できるソフト。クラスルームで繋がっていない生徒でも、各自に二次元コードを読み込んでもらうだけで、質問を打ち込むことができる。質問を考えながら、プレゼンを聴くことで、6年生の「聴く力」と生徒会役員の「答える力」が同時に育つ。また、6年生は真摯に自分達の質問に答える生徒会役員を見ることで、生徒会の認識や頼もしい先輩がいるという実感をもち、中1ギャップの解消にも繋がっていく。



校則をなくしてよかったと思ったことはありませんか。

Anonymous
0 today, 10:00am
どんな校則がありましたか

Anonymous
0 today, 10:00am
生徒会はどんな大変なことがありますか。

Anonymous
0 today, 10:00am
どうやったら地域の人達に愛されますか

リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内中学校（岡山県）

【取組内容②】素粒子物理学講演会を対面&オンラインで実施

タイトル

素粒子物理学講演会を対面&オンラインで実施

活用目的
の概要

専門家を招聘しての講演会実施は生徒にとっては非常に有効な活動であり、積極的に実施すべきものではあるが、予算や日程調整等、課題は多い。それを解決する一つの手段がオンライン実施である。今回は、実施時間が限られる中で、対面講演時に質問の時間をゆっくり取れないという課題を、後日オンラインで質問タイムを取ることによって解決した。

使用アプリ：google form Meet

【活用概要】

- (1) 実施日： 対面：令和5年11月10日
オンライン：令和5年11月13日
- (2) 実施学年： 1年生
- (3) 実施講演会
「大きな宇宙のひみつとミクロな世界のひみつと加速器と」
講師 小林 隆
J-PARCセンター長。加速器を用いて人工的に生成したニュートリノを295km離れたスーパーカミオカンデに打ち込み、検出したニュートリノの性質を調べる研究に従事。主導する実験グループにより、ミュー型ニュートリノが電子型ニュートリノに変化することを発見し、2014年仁科記念賞受賞。
- (4) 実施内容の紹介（概要）
対面での講演会を70分実施し、そこで疑問に思ったこと等をformで集約、内容を講師に送付した。オンラインでは質問事項について、講演の振り返りを交えながら話をいただいた。

